

令和元年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子

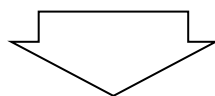
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・子どもにとって魅力ある授業や達成感・充実感のある授業の実施
- ・指導法の工夫による「学ぶ意欲の高揚」と「学習習慣の確立」
- ・学習規律の重視
- ・互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う集団づくりの推進

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題（○成果▲課題）	主な要因
国語	○普段から読書量が多いことや講師による読み聞かせの取組により、読む力の向上につながっている。 ▲自分の経験と関係付けながら詳しく書いたり、伝えたいことを自分の言葉でまとめて書いたりすることに課題が見られる。 ▲ローマ字や漢字など基本的な内容においてミスが見られる。	○週1回の朝読書や音読カードの取組、低学年対象のお話会により、意欲が高まっている。 ▲実体験不足や語彙の不足、多様な表現をする機会が少ないことが影響していると考えられる。 ▲学習したことを活用する機会が少ないと考える。
算数・数学	○算数に関する関心・意欲は高い。基礎基本の定着率は非常に高く、難問にも意欲的に取り組む姿が見られる。 ▲意欲面、基礎基本的な内容に課題のある児童が見られる。	○習熟度別少人数指導において、担任、専科との指導の共有ができ、個々の児童に応じた指導ができています。 ▲既習事項の定着不足や「できた」「分かった」という成功経験が少ない。
社会	○関心・意欲が高く、特に、体験や見学したことを新聞等にまとめることを好む。 ▲資料を読み取り表現することや、複数の資料をもとに関連付けることに課題が見られる。	○体験、見学したことについて、まとめる活動を継続的に行ってきた。 ▲資料から原因、要因を考へることや多数の情報を整理して共通点や相違点などの視点をもつこと、社会的事象の捉えが苦手である。
理科	○全体的に関心・意欲が高く、実験や観察に意欲的に取り組むことができる。 ▲生物領域や対照実験の理由、実験器具等の名称についての知識に課題が見られる。	○教材を工夫し、学習のめあてを明確にした指導ができています。 ▲体験・経験不足や実験における、ねらい、予想、結果からの考察と理論的に考えを進めていくことが苦手である。
体育	○3年間の校内研究により、児童が自ら考え、学び合う学習展開を行うことにより、児童の意欲や技能の向上が見られている。 ▲体力調査において、柔軟性や投力、握力が低い傾向にある。	○本校における授業のスタンダードができており、それに沿った指導ができています。 ▲運動をする機会、場所が少なく、運動経験の差が運動技能の差につながっている。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を全児童が常に意識できるよう指導する。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 ・朝学習における漢字・計算練習の積み重ねや放課後や夏季休業中の補習学習により、基礎学力を高めるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「学校の約束を守っていますか」において肯定的評価95%以上を目指す。 ・東京ベーシック・ドリル診断テスト（算数）において達成率85%以上、漢字検定において合格率90%以上を目指す。
②授業改善	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画、実践、振り返りを常に行い、児童の実態に合った授業ができるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「授業の内容がよく分かる」において、肯定的評価が95%以上を目指す。
③教員の指導力	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを理解し、児童がその達成に向けて意欲的に取り組めるような授業力をつける。 ・校内研究や本校研究の中心でもある「関わり合い」をテーマに、各教員が年1回授業を公開し、教員相互に授業観察を行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「学校は学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」において、肯定的評価が90%以上を目指す。
④家庭との連携	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や学年の方針、取組等を保護者に伝え、協力体制を作る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。」において肯定的評価が90%以上を目指す。
⑤体力向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「休み時間は外に出て、元気に遊ぶことができていますか」において、肯定的評価が80%以上を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	授業開始と終了が意識できるようにチャイム着席、あいさつの指導を徹底する。
取組Ⅱ	朝学習において全校読書を行ったり、国語や算数の復習を中心とした時間を設けたりして、基礎・基本の徹底を図る。
取組Ⅲ	放課後や夏季休業中に補充学習を行う。
②授業改善	
取組Ⅰ	学習指導要領や教科書、指導書、過去の実践例を参考に、児童の実態に合った授業計画作成や教材研究を行い、児童が意欲的に取り組める授業にする。
取組Ⅱ	常に授業に対する振り返りを行い、授業改善を行う。そして、魅力ある授業や達成感・充実感のある授業する。
取組Ⅲ	児童が自ら進んで学習に取り組み、深い学びとなるよう、目的に沿った話し合い活動を設定し、授業をする。
③教員の指導力	
取組Ⅰ	教科の目標、毎時間のめあてを理解し、それを目指した授業を行い、児童が学習に意欲的に参加して達成感・充実感をもたせるようにする。また自らの授業を振り返り、授業力を高めていく。
取組Ⅱ	「中央区小学校授業スタンダード」を活用するとともに、教師同士がお互いの授業を参観したり、指導方法の共有をしたりすることで、自己研鑽を行い、授業力を高めていく。
取組Ⅲ	I C Tの効果的な活用法を検討し、授業に生かしていく。
④家庭との連携	
取組Ⅰ	学年便りや連絡帳を通して家庭との連絡を密にし、授業準備に必要な物を周知し、忘れ物を少なくし、授業の充実を図れるよう協力を願う。
取組Ⅱ	年2回の個人面談、年3回の保護者会、毎月の学年便り、HP等を通して、児童の学習・生活の状況を伝え、保護者との連携を深める。
取組Ⅲ	児童の学習状況に応じて、保護者の理解を得たうえで、放課後や夏季休業中に補習を行う。
⑤体力向上	
取組Ⅰ	中休みは校庭や体育館で遊ぶよう指導し、体を動かす時間、機会を確保する。
取組Ⅱ	毎週木曜日のロング中休み(30分)では、外でたっぷり遊ぶ時間を確保するとともに、月一回程度のためわり班活動では、6年生が企画した大縄チャレンジや様々な遊びに取り組む。
取組Ⅲ	2月に行われる「マラソン大会」を目標に、全学年、体育や体育朝会で時間走に取り組む。また、高学年では、講師を招き「走り方教室」を開催し、走ることへの興味関心をさらに高める。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	<p>チャイム着席や授業開始、終了あいさつの指導、授業規律を徹底することで、学習環境を整えることができた。</p> <p>保護者アンケートの「学校は基礎学力が身に付くように教えている」の項目では、肯定的評価が96.1%であった。昨年度を上回っている。</p>	<p>「学校の約束を守っていますか」において昨年度同様87.4%であった【昨年度91.8%】。全児童が学校の約束を常に意識できるように重点指導とするとともに、保護者にも年度初めの保護者会で学校のきまりについて説明し、協力を願う。</p> <p>東京ベーシックドリル診断テスト（第2回、算数）において全学年で達成率80%以上となった。達成率を上げるためにも、朝学習や補習を行い、基礎学力の定着を図る。</p>
②授業改善	<p>授業計画、実践、振り返りを常に行い、児童の実態に合った授業を行った結果、児童アンケートの「授業の内容がよく分かる」という項目で、肯定的評価が95.6%であった。</p>	<p>児童が自ら進んで学習に取り組み、深い学びとなるよう、学年で指導方法の共有を積極的に行うようにする。</p>
③教員の指導力	<p>教科の目標、毎時間のめあてを理解し、それを目指した授業を行い、児童が学習に意欲的に参加して達成感・充実感をもたせるよう工夫した。その結果、「学校は学習内容が分かりやすく楽しい授業をしている」という項目で肯定的評価が95.0%であった。</p>	<p>今年度の研究主題「話し合い、認め合う子の育成」を受けて、研究授業にて、指導法を学んだり、また、教師同士がお互いの授業を参観したり、指導方法の共有をしたりする機会を継続的に行っていく。</p>
④家庭との連携	<p>実態調査アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくて内容も適切である。」において93%であった【昨年度91%】。</p> <p>学校便り、学年便りを25日頃には配布をしてほしいという要望に対して、改善をした結果である。</p>	<p>ホームページを随時更新することができている。学校の教育活動をさらに理解してもらえるよう努力を続けている。</p>
⑤体力向上	<p>児童アンケートの「休み時間は外に出て、元気に遊ぶことができますか」という項目で、肯定的評価が84.3%であった。</p>	<p>今年度は、大規模改修工事のため、校庭での体育の授業や休み時間の遊び場の制限があり、十分に体を動かし、親しむことができなかった。</p>